



ご参考資料

2018年11月15日

目次

1.	製粉業界の基礎知識	・・・ P3	16.	事業内容	・・・ P27
2.	製粉業界の現状（1）～（5）	・・・ P4	17.	製粉事業	・・・ P28
3.	麦価改定ルールー外国産小麦ー	・・・ P9	18.	製粉事業のローコストオペレーション戦略	・・・ P29
4.	小麦粉の価格が変動する要因としくみ（1）～（4）	・・・ P10	19.	食品事業	・・・ P30
5.	国内の麦価（1）～（2）	・・・ P14	20.	その他事業	・・・ P31
6.	ふすま市場の現状（1）～（2）	・・・ P16	21.	海外事業	・・・ P32
7.	経営環境	・・・ P18	22.	コーポレートガバナンス体制	・・・ P33
8.	小麦の栽培暦	・・・ P19	23.	日本製粉グループのCSR活動	・・・ P34
9.	日本製粉㈱ 会社紹介	・・・ P20			
10.	日本製粉グループの概要	・・・ P21			
11.	沿革	・・・ P22			
12.	NIPPONグループの総合的なサービス	・・・ P23			
13.	主要な事業拠点	・・・ P24			
14.	経営成績の推移（1）～（2）	・・・ P25			

製粉業界の基礎知識



横浜工場



アメリカの小麦畑



シカゴ商品取引所



製粉業界の現状

麦制度の改定 -外国産小麦-

小麦粉の価格が変動する要因としくみ

国内の麦価

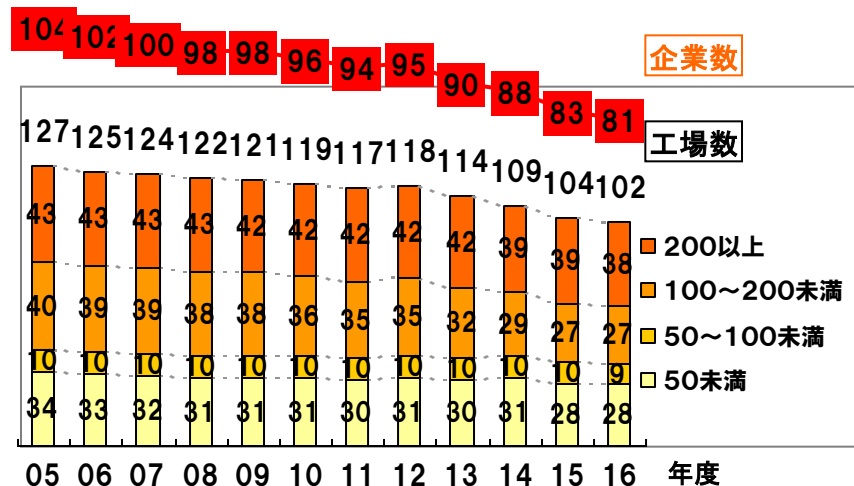
ふすま市場の現状

経営環境

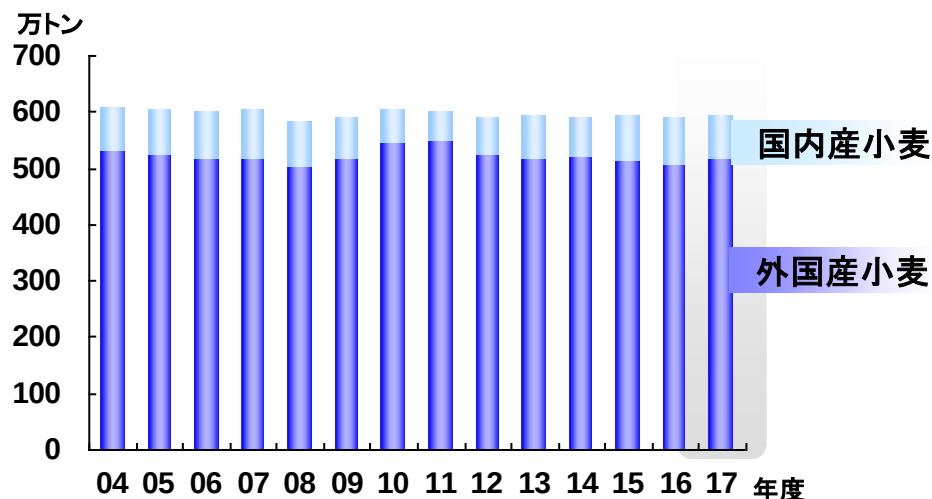
小麦の栽培暦

製粉業界の現状（１）

製粉企業数と工場数

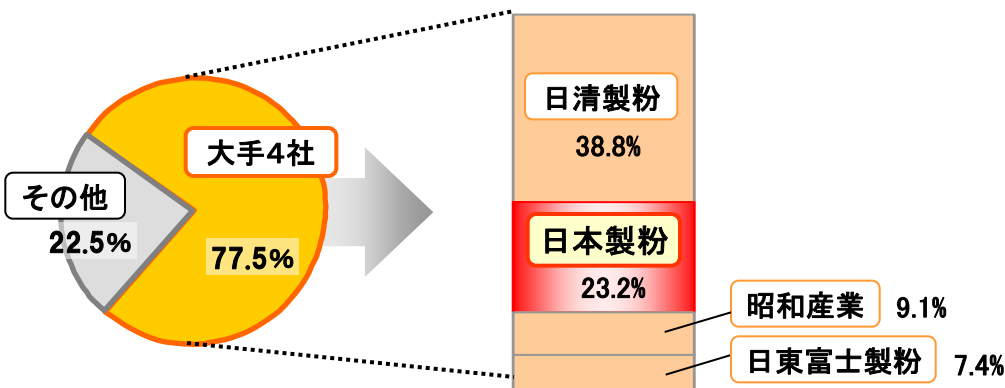


国内製粉用小麦加工数量の推移

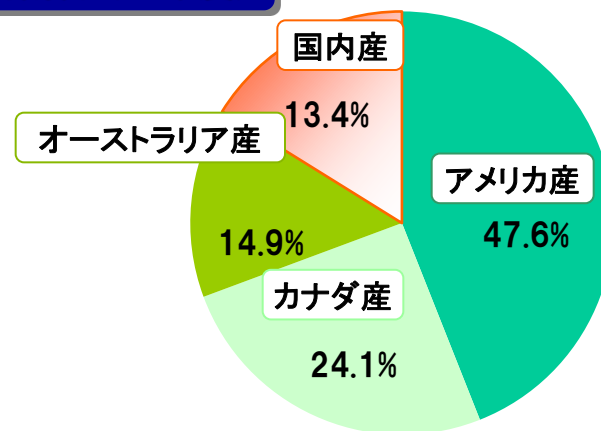


製粉業界シェア

(17年度 酒類食品統計月報より)

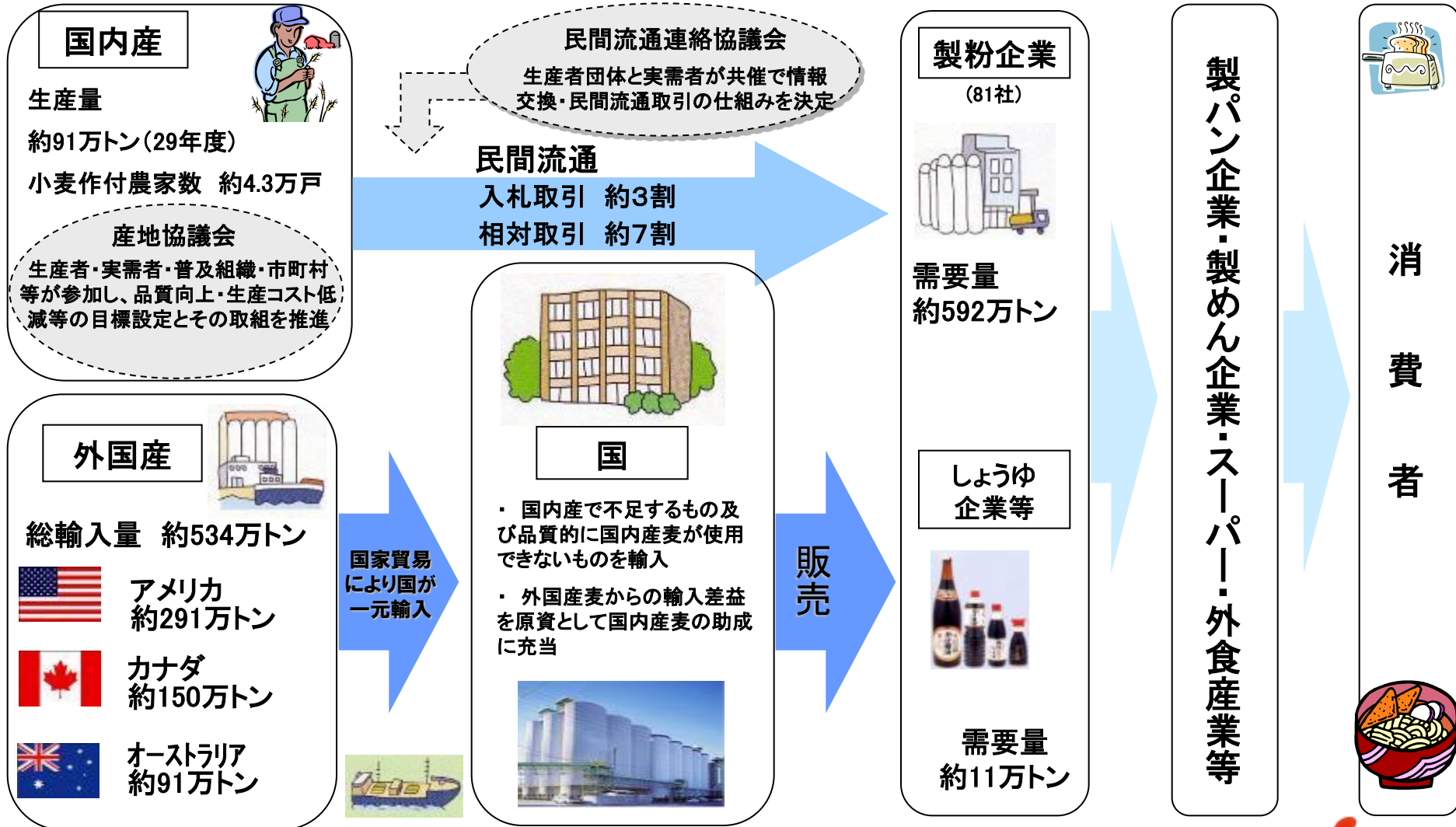


原産国別割合（17年度）



製粉業界の現状（２）

日本国内の小麦の流通



製粉業界の現状（３）

小麦粉の種類と用途

		強力粉	準強力粉	中力粉(普通粉)	薄力粉	デュラム・セモリナ
蛋白質の含有量		11.5～13.0%	10.5～12.5%	7.5～10.5%	6.5～9.0%	11.0～14.0%
主に使用される原料小麦の種類		 ダーク・ノーザン・スプリング (DNS)	 ハード・レッド・ウィンター (HRW)	 スタンダード・ホワイト (ASW)	 ウェスタン・ホワイト (WW)	 デュラム (DRM)
		 ウェスタン・レッド・スプリング (1CW)	 プライムハード (PH)	 国内産小麦		
銘柄		DNS 1CW	HRW PH	ASW	WW	DRM
主な用途	パン粉	食パン	食パン 菓子パン フランスパン他	うどん ひやむぎ、そうめん ビスケット 和菓子	カステラ ケーキ 和菓子 天ぷら粉 ビスケット	スパゲッティ マカロニ
	めん粉					
	菓子粉					
	家庭用					
工業用	焼ふ、かりんとう、グルテン、でんぷん				駄菓子、製糊	
その他	焼接着剤(工業用)、飼料用					

製粉業界の現状（４）

小麦粉生産の内訳



約600万トン
(一人当り小麦粉年間消費量≒33.0Kg)

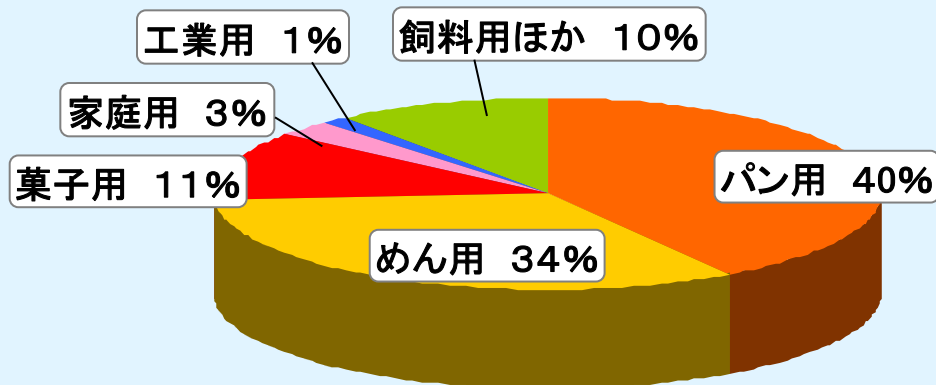
小麦粉
約80%

ふすま
約20%



原料穀物サイロ

小麦粉



ふすま(飼料用)

ふすま



製粉業界の現状（5）

日本の農業の現状～麦制度改革の背景

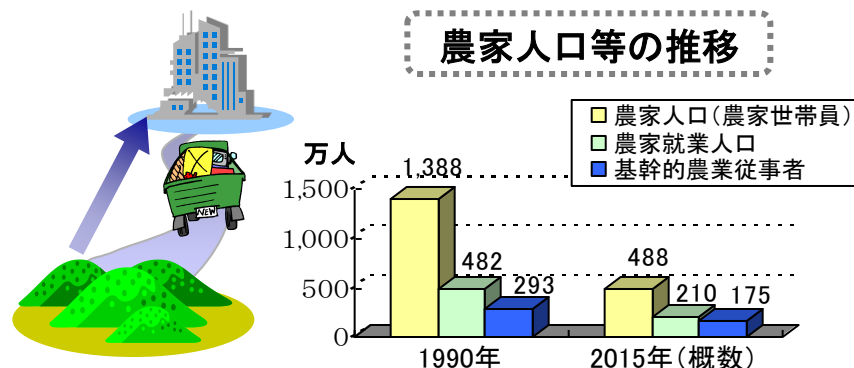
① 食料自給率の低下

	1990年	2016年
主食用穀物自給率	67%	→ 59%
供給熱量総合食料自給率	48%	→ 38%



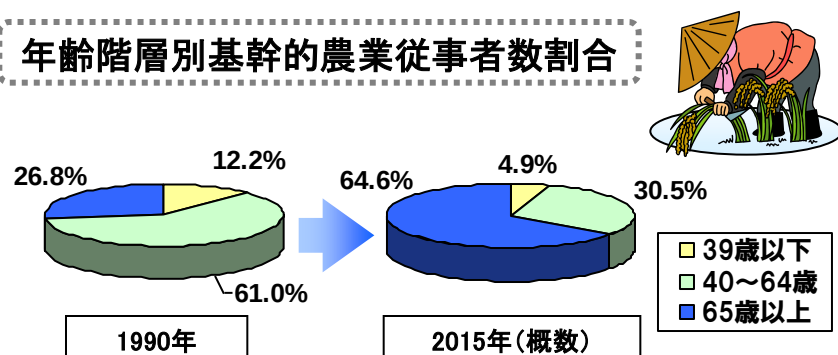
② 農家の人口減少

農家人口等の推移



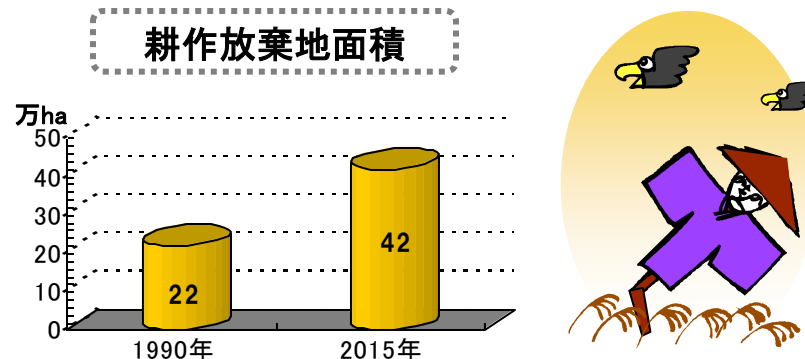
③ 農家の高齢化進行

年齢階層別基幹的農業従事者数割合



④ 耕作放棄地の増加

耕作放棄地面積



資料：農林水産省「農林業センサス」

麦価改定ルールー外国産小麦ー

政府買付価格(変動)

・過去6ヵ月(※)の加重平均価格

毎月発表

(※) 過去6ヵ月:4月改定の場合は前年9月～当年2月

10月改定の場合は当年3月～当年8月

+

マークアップ

・内麦助成金充当分+管理経費

年間固定

+

港湾経費

・吸揚料等

年間固定

最終決定

政府売渡価格

(2018年10月1日以降)

55,560円/トン

↕

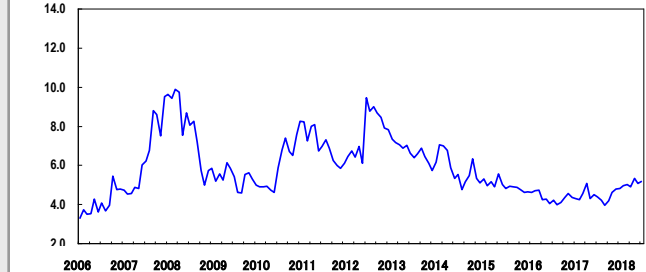
+2.2%

政府売渡価格

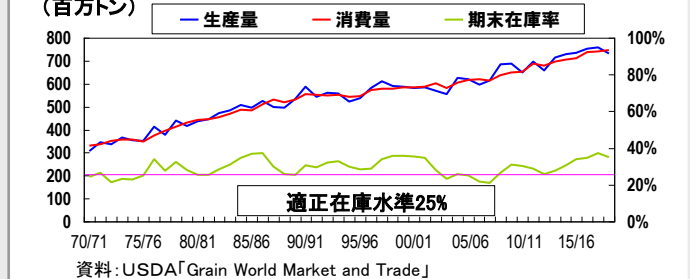
(2018年4月1日以降)

54,370円/トン

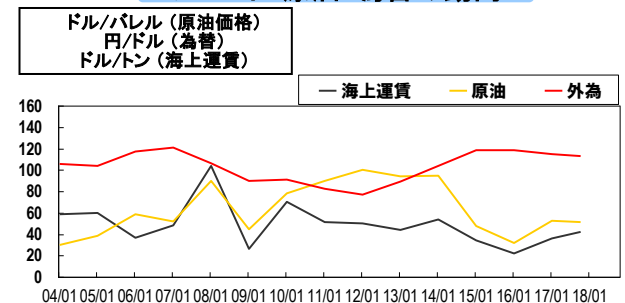
シカゴ小麦相場の推移



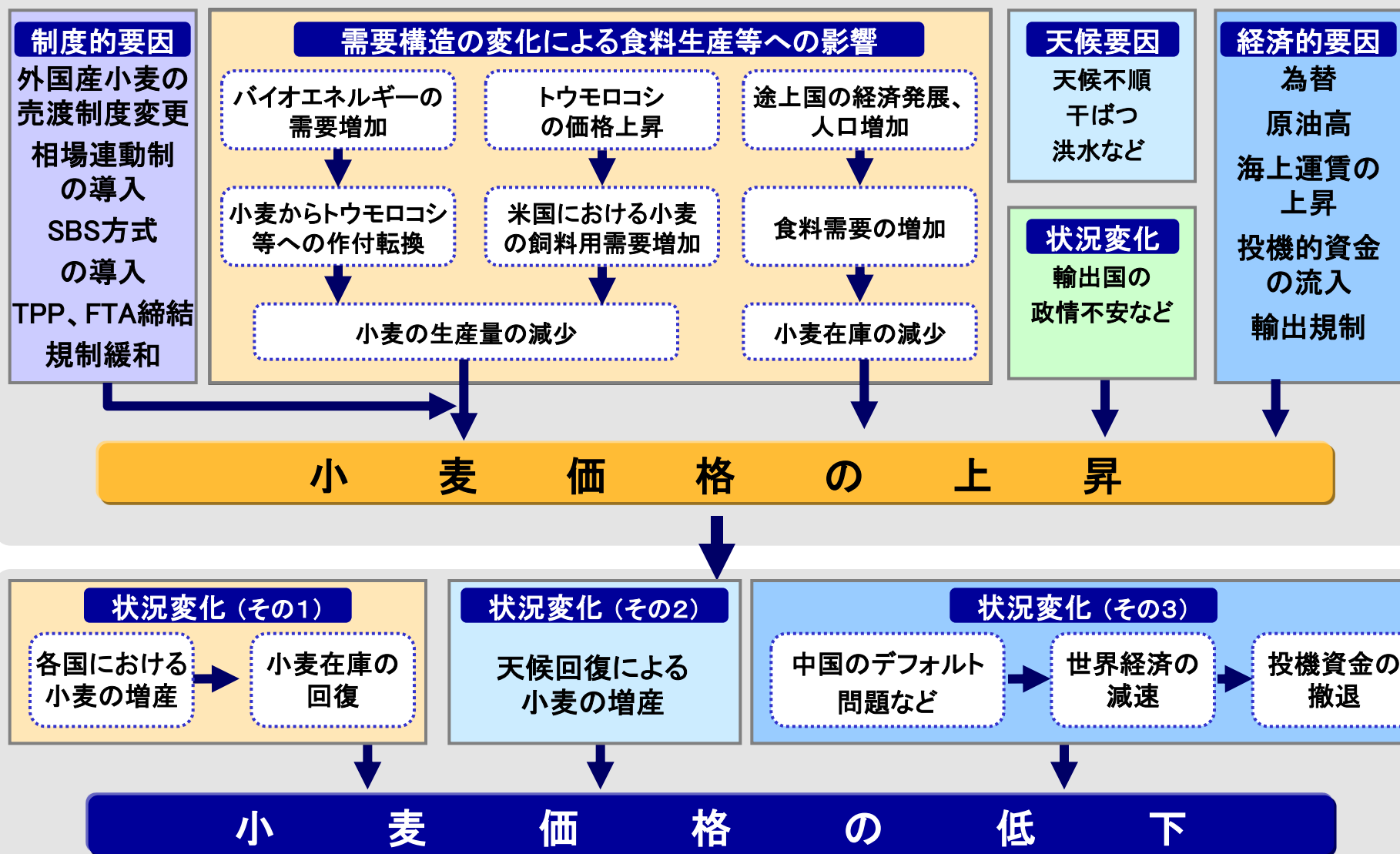
小麦需給の動向



フレート・原油・為替の動向



小麦粉の価格が変動する要因としくみ（１）

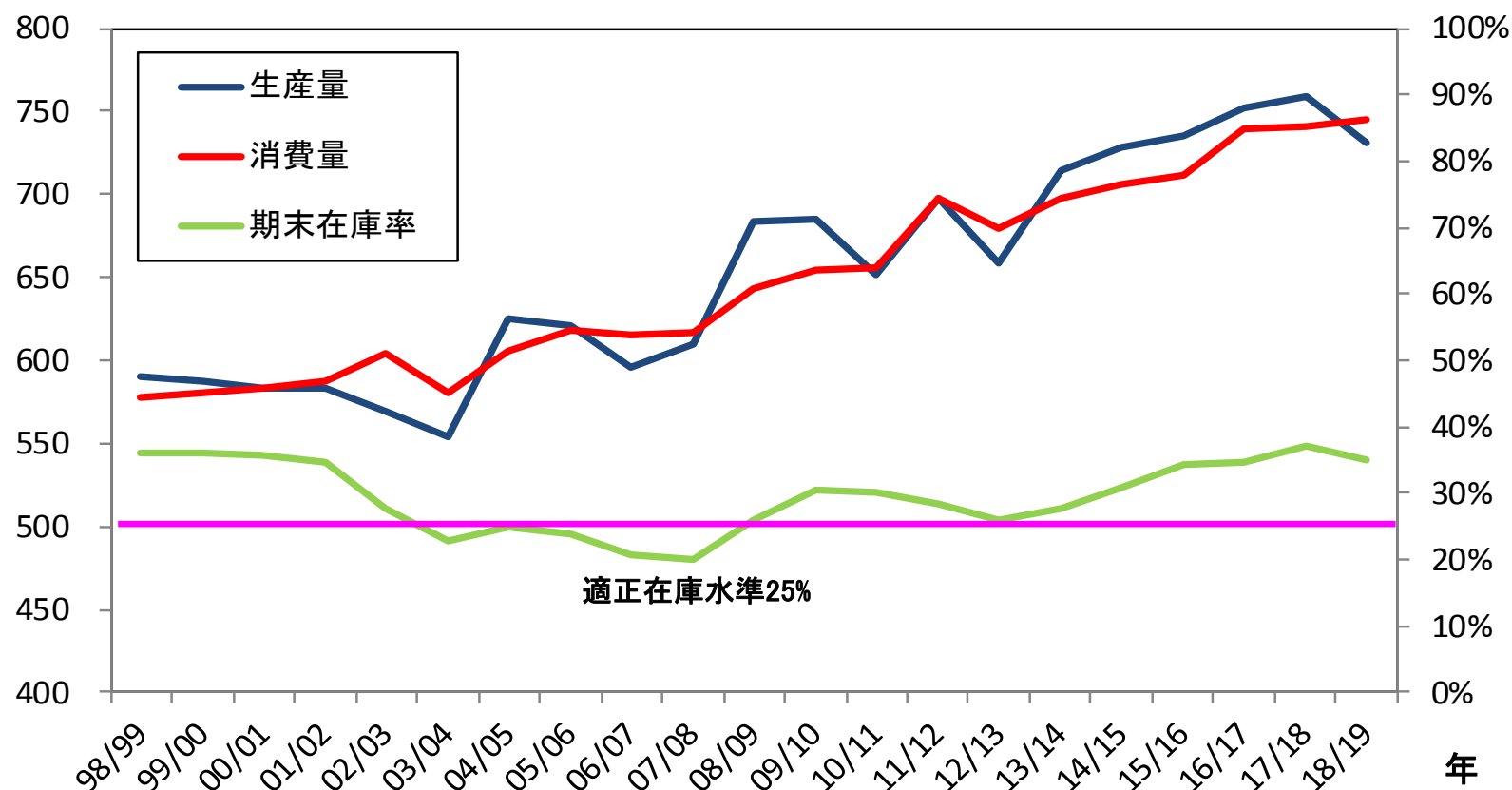


小麦粉の価格が変動する要因としくみ（２）

世界の小麦需給の動向

生産量・消費量
(百万トン)

期末在庫率

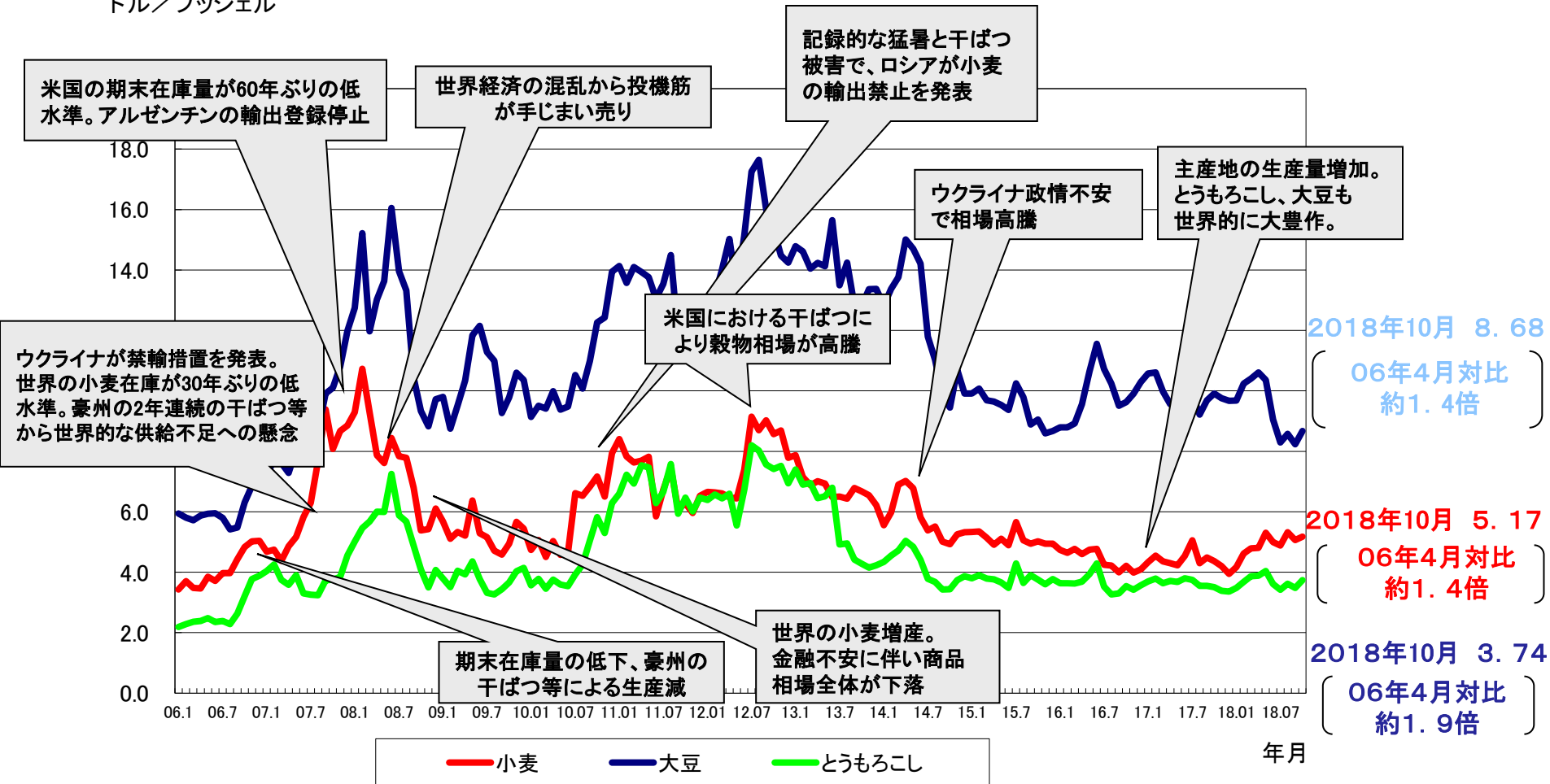


資料:USDA「Grain World Market and Trade」

小麦粉の価格が変動する要因としくみ（3）

シカゴ相場の推移

ドル／ブッシェル



注：価格は、各月最終週末の期近価格

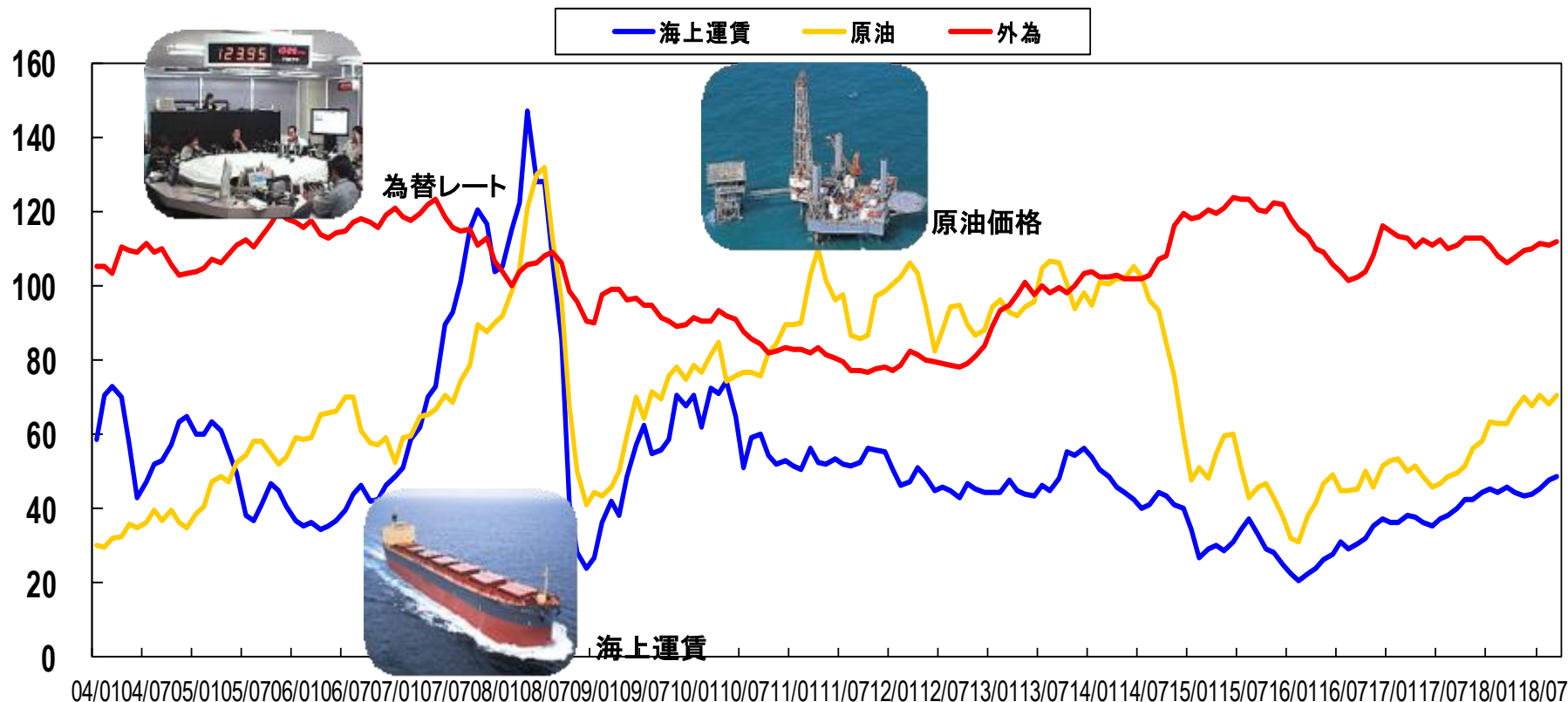
注：1ブッシェルは、小麦・大豆は約27.2kg、とうもろこしは約25.4kg

資料：シカゴ商品取引所

小麦粉の価格が変動する要因としくみ（４）

原油価格、為替レート、海上運賃等の影響

ドル/バレル（原油価格）
円/ドル（為替）
ドル/トン（海上運賃）



資料 : ロイター・ES=時事
: 内閣府「海外経済データ」よりWTI(米国ウエスト・テキスト・インターミディエート)
: World Maritime Analysis、日本経済新聞

国内の麦価（１）

外国産小麦政府売渡価格

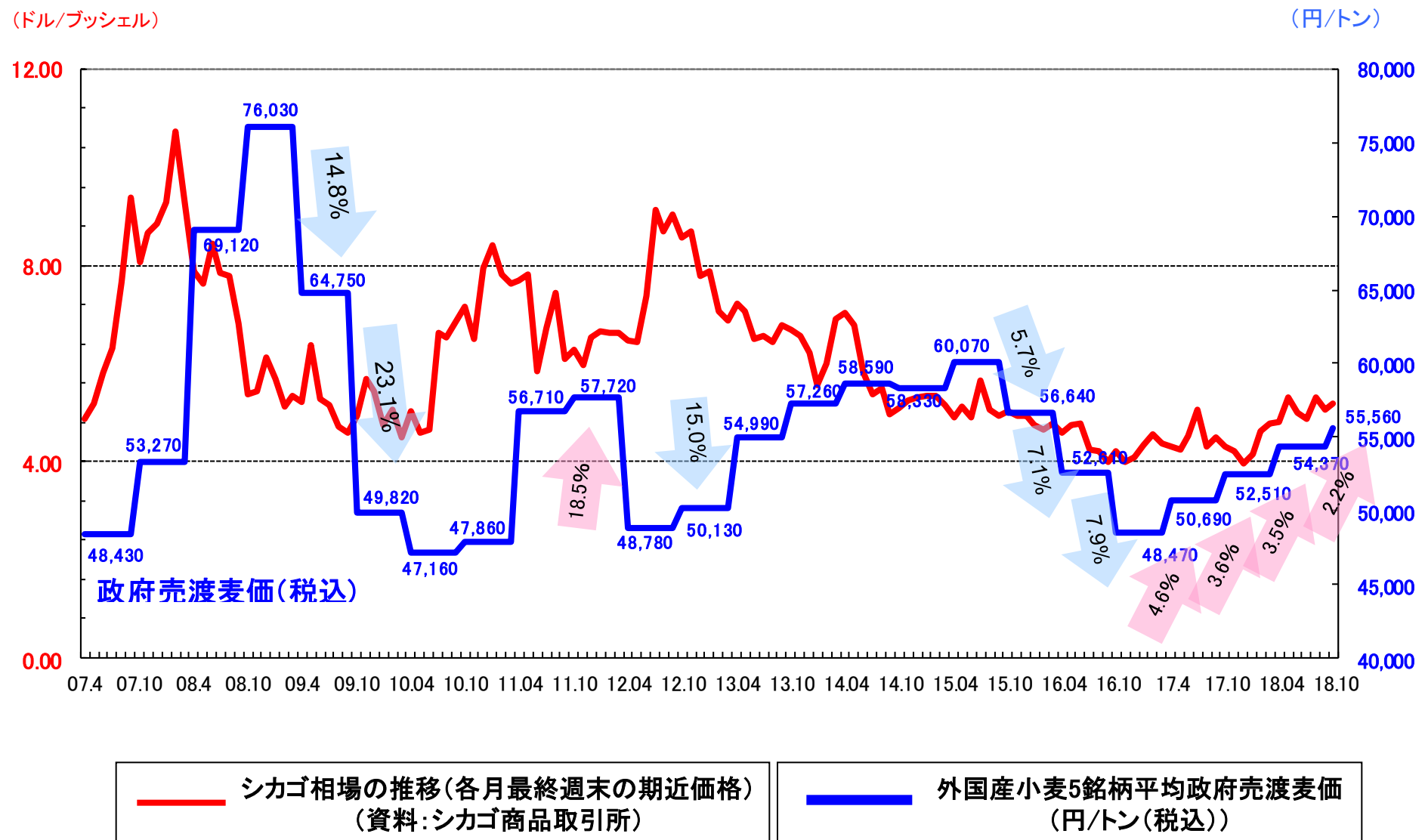
円(税込)／トン

銘柄	～ 07年3月	07年4月 ～07年9月	07年10月 ～08年3月	08年4月 ～08年9月	08年10月 ～09年3月	09年4月 ～10月15日	09年10月16日 ～2010年3月	10年4月 ～10年9月	10年10月 ～11年3月	11年4月 ～11年9月	11年10月 ～12年3月	12年4月 ～12年9月
5銘柄平均	47,820	48,430	53,270	69,120	76,030	64,750	49,820	47,160	47,860	56,710	57,720	48,780
5銘柄平均 前回比増減 率	—	+1.3%	+10%	+30%	+10%	▲14.8%	▲23%	▲5%	+1%	+18%	+2%	▲15%
※5銘柄平均 価格指数	100.0	101.3	111.4	144.5	159.0	135.4	104.2	98.6	100.1	118.6	120.7	102.0

銘柄	12年10月 ～13年3月	13年4月 ～13年9月	13年10月 ～14年3月	14年4月 ～14年9月	14年10月 ～15年3月	15年4月 ～15年9月	15年10月 ～16年3月	16年4月 ～16年9月	16年10月 ～17年3月	17年4月 ～17年9月	17年10月 ～18年3月	18年4月 ～18年9月	18年10月 ～19年3月
5銘柄平均	50,130	54,990	57,260	58,590	58,330	60,070	56,640	52,610	48,470	50,690	52,510	54,370	55,560
5銘柄平均 前回比増減 率	+3%	+9.7%	+4.1%	+2.3%	▲0.4%	+3.0%	▲5.7%	▲7.1%	▲7.9%	+4.6%	+3.6%	+3.5%	+2.2%
※5銘柄平均 価格指数	104.8	115.0	119.7	122.5	122.0	125.6	118.4	110.0	101.4	106.0	109.8	113.7	116.2

※5銘柄平均価格指数・・・2007年3月以前の価格を100とする

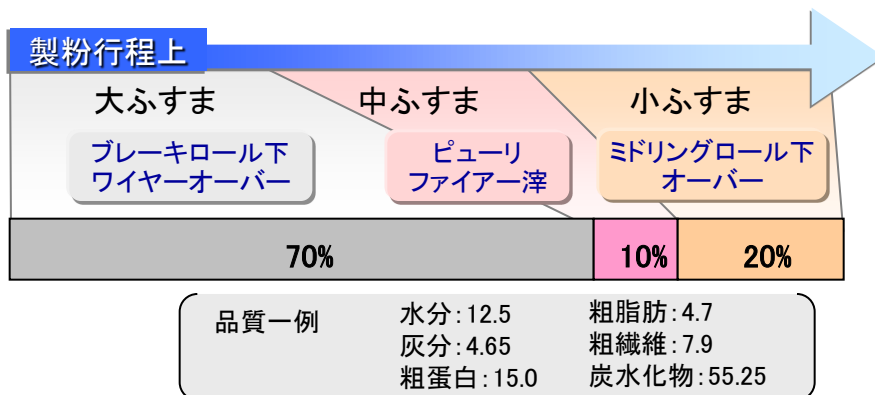
国内の麦価（２）



ふすま市場の現状（１）

ふすまとは？

小麦の外皮のこと



* 品質については製粉各社の品質管理により多少差がある

ふすまの特性

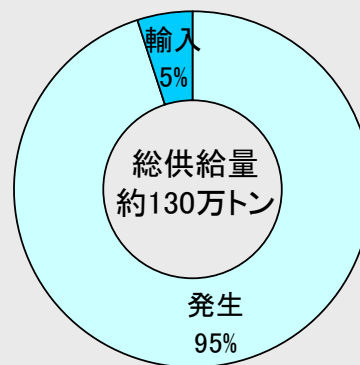
- ①小麦粉製造の副産物
 - ・小麦粉を製造すれば必然的に20%程度発生する副産物
- ②相場商品
 - ・飼料原料(輸入穀物)やフレート・為替の相場に影響を受ける
- ③生産地と消費地の乖離
 - ・ふすまは小麦粉の生産地(大消費地である大都市圏)で作られる
 - ・ふすまは畜産が盛んで、配合飼料工場も多い北海道・九州地域で多く消費される



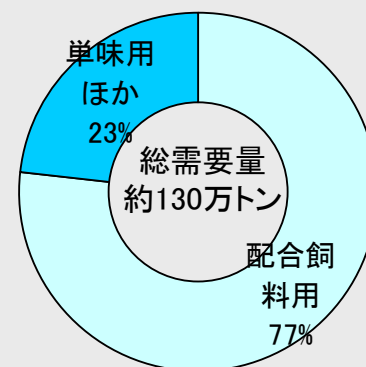
ふすまの需給

- ・ふすまの供給: 国内の製粉工程から発生するものと輸入されてくるものがある
- ・ふすまの需要: 主な用途は飼料です。
配合飼料用(複数の飼料原料をブレンドする)としてのほかに、単味用(飼料用としてそのまま販売されるもの)、培地用(きのこ栽培や酵素製造に利用)がある。

ふすまの供給
2016年(1～12月)



ふすまの需要
2016年(1～12月)



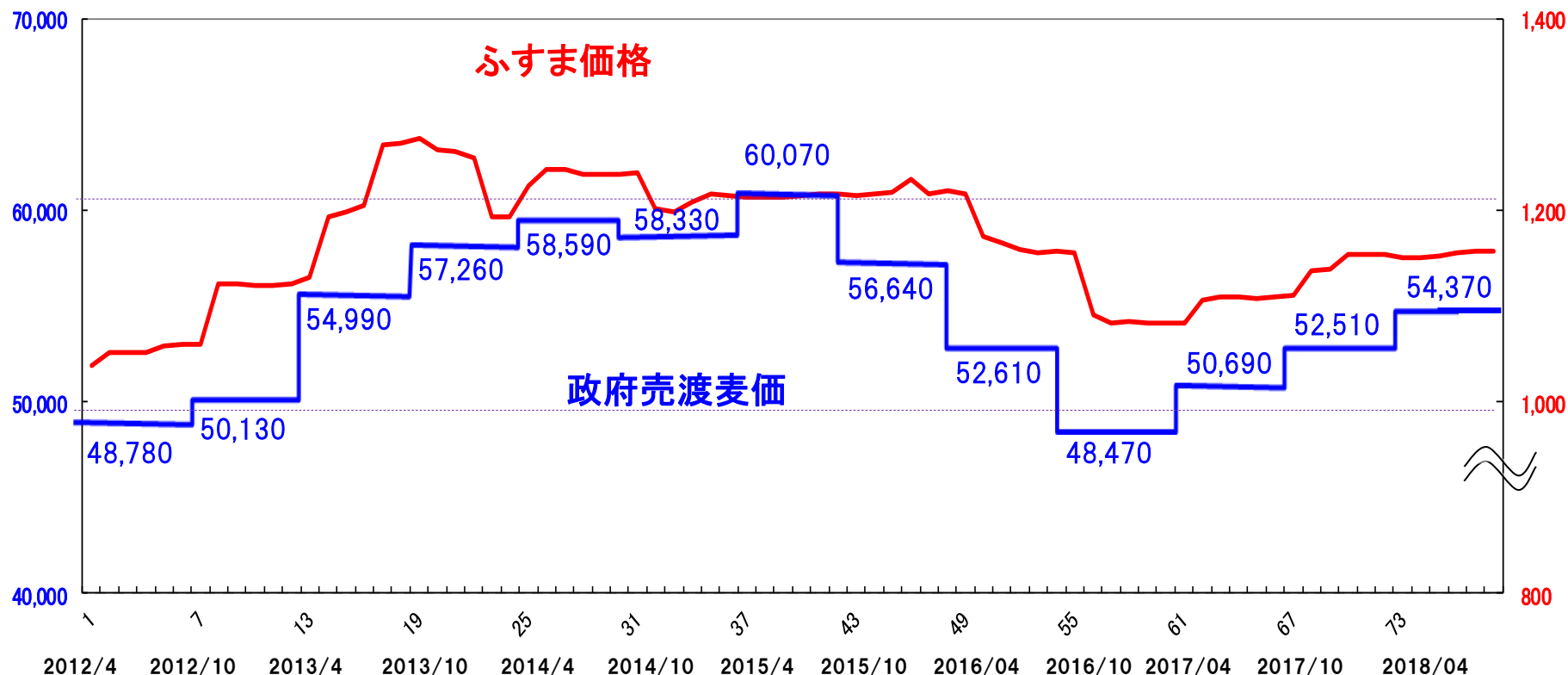
※「日本貿易統計」「配合飼料供給安定機構」の数値をもとに
当社推計

ふすま市場の現状（２）

（円/トン）

ふすま販売価格と政府売渡麦価

（円/30Kg）



一般ふすま販売価格 (円/30Kg)
(農林水産省統計部「農業物価統計」より)

外国産小麦5銘柄平均政府売渡麦価
(円/トン(税込))

経営環境 貿易自由化の試み

WTO、FTA(EPA)、TPPの違い

関税**削除**交渉

WTO

(世界貿易機関)

- ・159カ国・地域が加盟
- ・加盟国共通のルールづくり(関税削減率。国内補助金の削減、輸出補助金の撤廃)

例外的措置

関税**撤廃**交渉

FTA(自由貿易協定)

EPA(経済連携協定)

- ・2国間または複数国間で行う関税撤廃・ルール統一交渉
- ・「実質上すべての貿易(一般的には90%以上と解釈)について、原則として10年以内の関税撤廃」とガット第24条で規定

多様な農業の共存
例外なき関税撤廃

矛盾

TPP(環太平洋連携協定)

太平洋をとりまく11カ国間のFTA

- ・11カ国で行う関税撤廃・ルール統一交渉
- ・除外・例外品目を認めず、全品目の関税を撤廃
- ・様々な分野の制度・仕組みを統一

TPP交渉参加国(11カ国)

- ・オーストラリア
- ・シンガポール
- ・ニュージーランド
- ・マレーシア
- ・ベトナム
- ・メキシコ
- ・ペルー
- ・日本
- ・チリ
- ・ブルネイ
- ・カナダ

製粉事業への影響

①小麦、小麦関連品の関税率の削減率、削減時期の決定

現状の関税率

- ・小麦 55円/Kg
- ・小麦粉 90円/Kg
- ・小麦粉調製品 16~28%
- ・パスタ 約30円/Kg
- ・ビスケット 13~15%

② 経営所得安定対策制度(食料自給率目標を前提に国、都道府県及び市町村が策定した「生産数量目標」に即して主要農産物の生産を行った販売農業者に対して、生産に要する費用と販売価格との差額を交付)(旧戸別所得補償制度)

小麦の栽培暦

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC
外国産	アメリカ 春小麦 HRS				播種			収穫					
	冬小麦 WW/HRW							収穫	播種				
	カナダ 春小麦 1CW				播種			収穫					
	オーストラリア					播種					収穫		
国内産	北海道 春小麦 春よ恋等				播種		出穂	登熟	収穫				
	北海道 冬小麦 ホクシン等						出穂	登熟 収穫		播種			
	関東 冬小麦 農林61号等				出穂	登熟	収穫					播種	
	九州 冬小麦 シロガネ等				出穂	登熟 収穫							播種



- ・春小麦・・・春に種子を播いて夏から秋に収穫するタイプ
- ・冬小麦・・・秋に種子を播いて翌年の夏に収穫するタイプ

日本製粉(株) 会社紹介



クッキー



コムギン



本店ビル

日本製粉グループの概要

沿革

NIPPONグループの総合的なサービス

主な事業拠点

経営成績の推移

事業内容

製粉事業

食品事業

その他事業

海外事業

ガバナンス / CSR 活動

日本製粉グループの概要



- 会社名： 日本製粉株式会社
- 設立： 1896年12月
- 資本金： 12,240百万円
- 企業数： 子会社(62社)及び関連会社(25社)
内、連結子会社(47社)及び持分法適用会社(14社)
- 従業員数： 日本製粉 1,156人
連結ベース 3,754人

(2018年9月末現在)

企業理念
(抜粋)

顧客満足の増大

持続的成長の実現

従業員の幸福
と自己実現

社会との共生

沿革

122年の歴史

経営の歴史

合併により拡大を加速

創業当初から昭和初期まで、日本製粉は大規模な合併を繰り返し、事業を拡大。日本のみならず、中国大陆を中心に、海外へも進出。

ぜいへん(*)
「蛻变的業態転換」を
繰り返し事業を拡大

製粉事業

明治

1896年(明治29年):
最新の機械式
小麦製粉で創業

大正

1914年(大正3年):
そば粉の製粉開始

昭和

事業多角化の歴史

1969年(昭和44年):コーンの製粉開始
1975年(昭和50年):米の製粉開始

平成

戦後は事業拡大と技術革新を進め、
多角化による企業再構築により業容拡大して現在に至る。

1896年(明治29年)
日本製粉株式会社設立



1897年(明治30年)
製品販売方法の革新



製造者名と品質・等級を
明示して販売メーカー主導
による特約店制度の採用

(*)蛻変(ぜいへん)とは…
蟬の幼虫がさなぎになり羽化して
成虫になっていく様。その都度
脱皮を繰り返し大きく形を変えて
いくことからこう呼ばれる。

食品事業

食材

1959年(昭和34年):
プレミックス事業に参入



2013年(平成25年):
ナガノトマトと資本提携

加工食品

1955年(昭和30年):
オーマイカットマカロニ発売

2003年(平成15年):
大豆へ進出(オーケー食品と提携)

冷凍食品



1973年(昭和48年):
クリームコロッケ発売

中食

1991年(平成3年):
中食事業参入

その他

1969年(昭和44年):
ファミリージャム発売
(ヘルスケア事業)

1989年(平成元年):
家庭用ペットフード事業
本格化



NIPPNグループの総合的なサービス

NIPPN

製粉事業、食品事業、その他事業
(健康食品、エンジニアリング etc.)

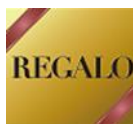


松屋製粉

Matsuya Flour Mills Co., Ltd.



加工食品事業



冷凍食品事業

日本製粉グループ
株式会社ファーストフーズ

中食・総菜事業



加工食品事業(大豆)

ニッポングループは、
グループの総合力で食に関わる
総合的なサービスを提供します。

NIPPN

- ▶ 企業数 : 子会社62、関連会社25
うち、連結47及び 持分会社14
- ▶ 従業員数: 日本製粉 1,156
連結 3,754(2018.9 末)



ジュンコフローラスクール

文化事業



スポーツ事業



バイオ事業



卸売事業



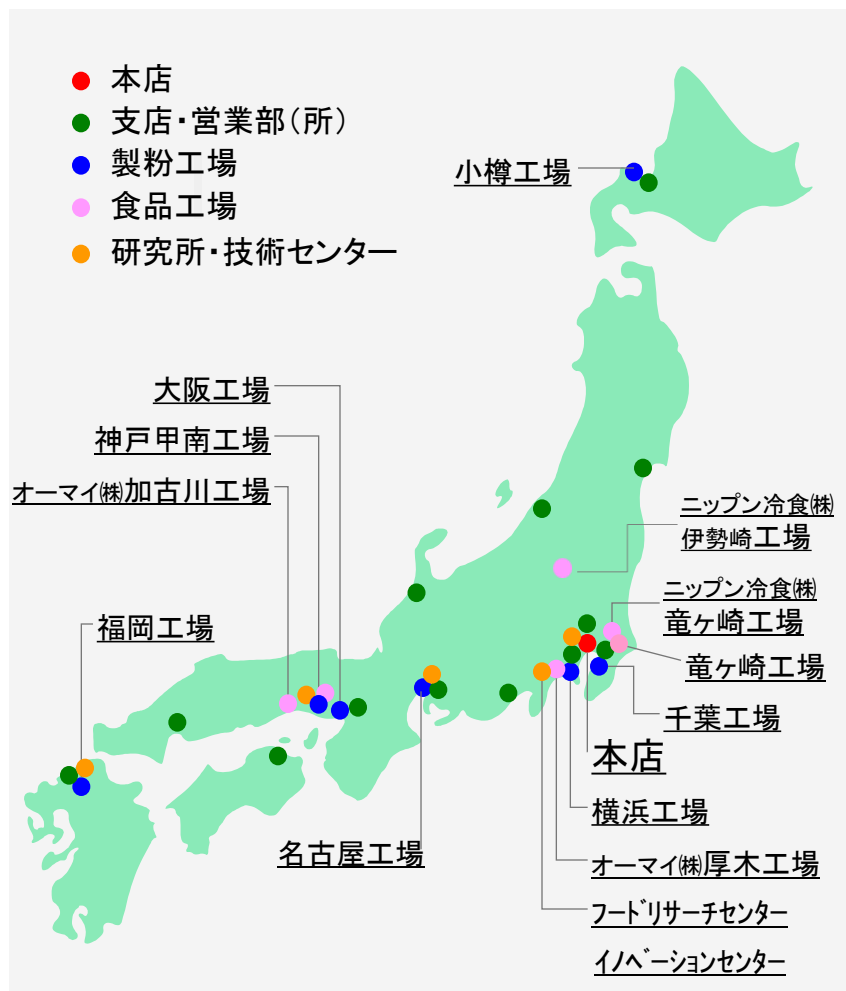
外食事業(フランチャイジー)



トマト事業

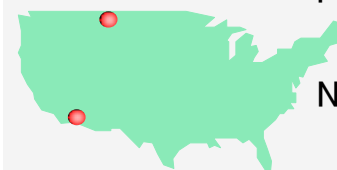
主要な事業拠点

国内拠点



海外拠点

アメリカ



PASTA MONTANA, L.L.C.

パスタの製造・販売等

NIPPON California Inc.

北米市場におけるアジア食品食材の販売

アジア



中国 天津全順食品有限公司

プレミックス製造・販売

上海日粉食品有限公司

プレミックス製造・販売

タイ NIPPON(Thailand)Co., Ltd.

プレミックス製造・販売

Nippon Flour Mills(Thailand)Ltd.

プレミックス販売

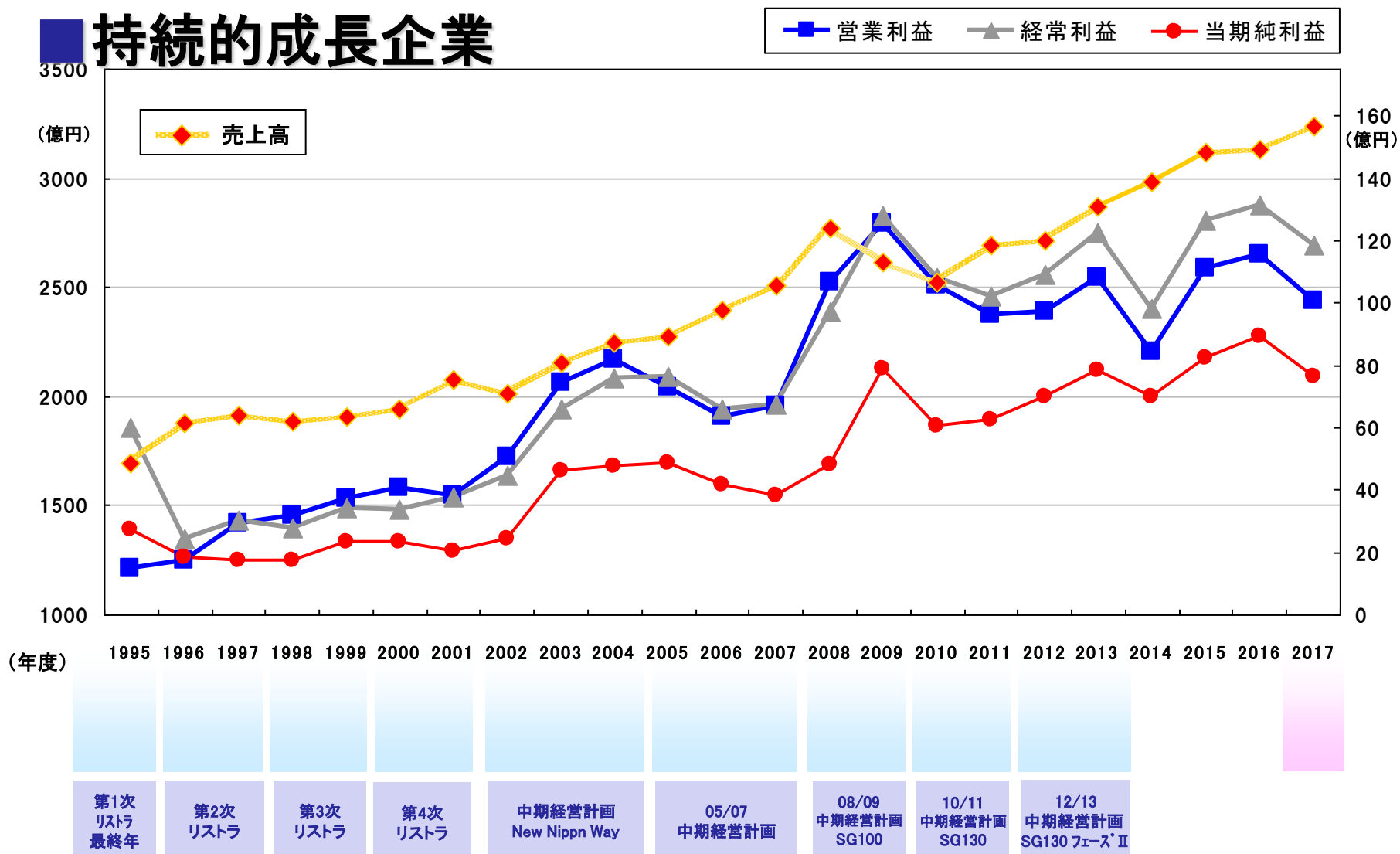
インドネシア

PT. NIPPON FOODS INDONESIA

プレミックス販売

経営成績の推移(1)

■ 持続的成長企業



経営成績の推移(2)

■ 持続的成長と事業構造の変化

(単位: 億円)

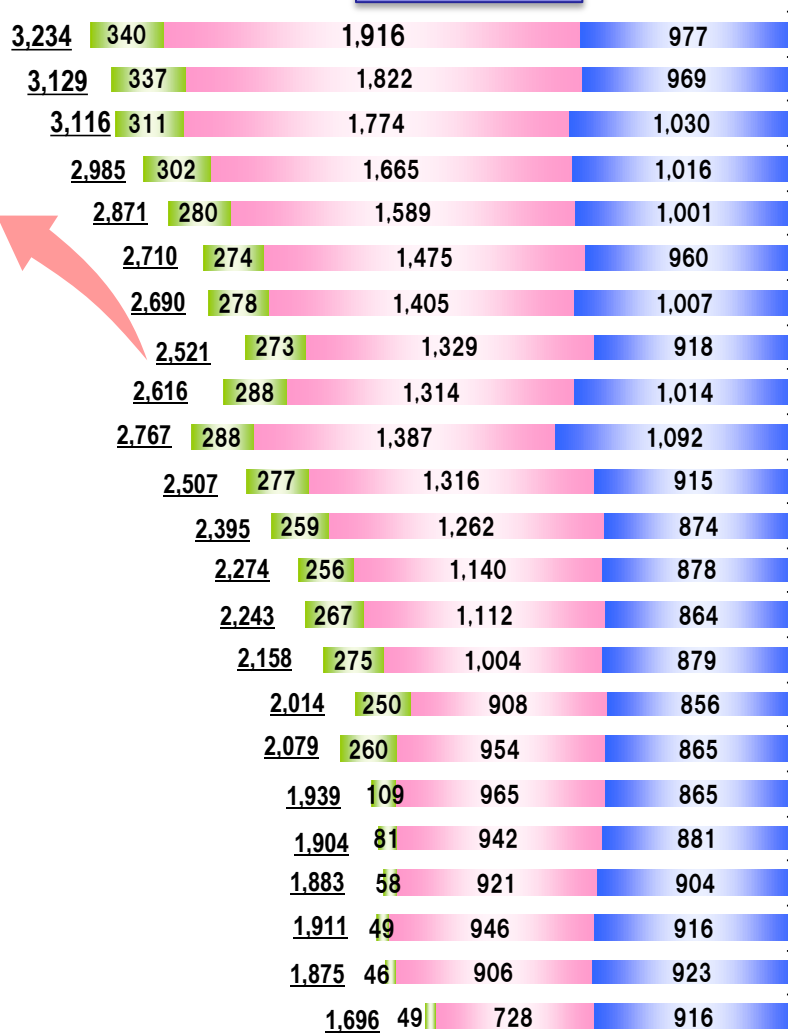
製粉

食品

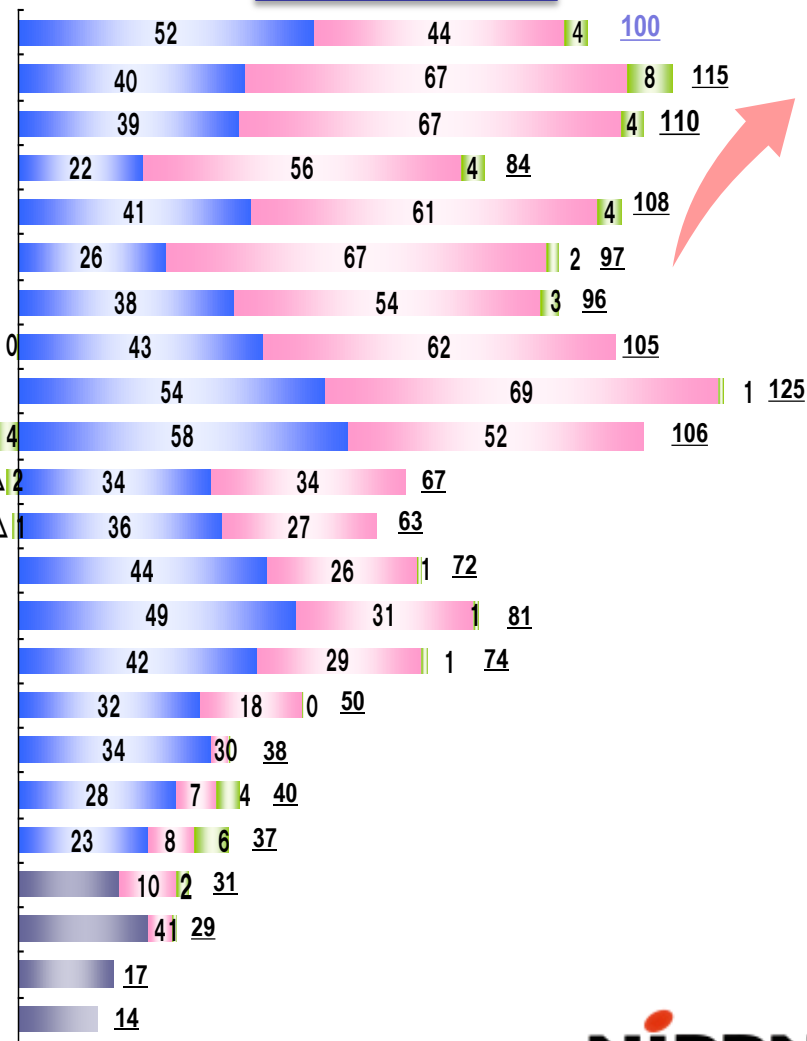
その他

売上高

営業利益



2017
2016
2015
2014
2012/2013 中期経営計画 SG130 フェーズⅡ
2010/2011 中期経営計画 SG130
2008/2009 中期経営計画 SG100
2005/2007 中期経営計画
中期経営計画 New Nippon Way 2002～2004
第4次リストラ 2000～2001
第3次リストラ 1998～1999
第2次リストラ 1996～1997
第1次リストラ 最終年



事業内容

2017年度売上高構成比

連結子会社
持分法適用会社

47社
14社

パンの花
バイオ事業
スポーツクラブ

健康食品
ペットフード
化粧品



製粉事業
977億円

業務用小麦粉



その他事業
340億円

食材

食品事業
1,916億円



加工食品



冷凍食品



中食



売上高
3,234億円

30%

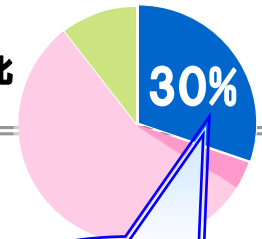
11%

59%

※億円未満切捨

製粉事業

2017年度
売上高構成比



製粉事業

977億円

(2017年度売上高実績)

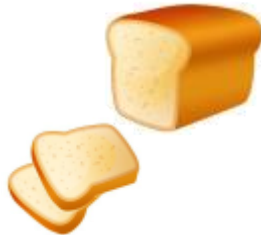
製粉工場の特長:

装置産業、大量生産、多銘柄生産、連産品、素材産業、原料の国家管理

製粉の作業工程



小麦粉の種類と用途

		強力粉	準強力粉	中力粉(普通粉)	薄力粉	デュラム・セモリナ
主 な 用 途	パン用粉	食パン	食パン	うどん	カステラ、ケーキ	スパゲッティ
	めん用粉		菓子パン	ひやむぎ、そうめん	和菓子、天ぷら粉	マカロニ
	菓子用粉		フランスパン他	ビスケット、和菓子	ビスケット	
	家庭用		中華麺			
	工業用	焼ふ、かりんとう、グルテン、でんぷん			駄菓子、製糊	
	その他	接着剤(工業用)、飼料用				

製粉事業のローコストオペレーション戦略

神戸甲南工場製造ライン

複合的大規模臨海工場

製粉から小袋・プレミックスまで1工場で完結

麦の吸揚げ
麦の保管

製粉

小袋・プレミックス

小袋・プレミックス工場

出荷

NIPPON

原料サイロ

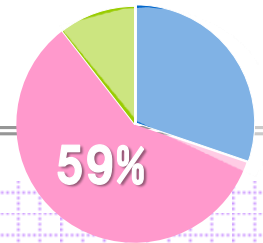
製粉工場

麦の吸揚げ
麦の保管



食品事業

2017年度
売上高構成比



食品素材事業

プレミックスを中心とした業務用素材

大手ドーナツチェーンへ納入



加工食品事業

パスタを中心とした家庭用食品群



原料・製法にこだわったREGALOシリーズ

定番のオーマイパスタシリーズ



簡単・便利・健康 特徴ある商品

冷凍食品事業

得意分野に特化した商品群



人気の冷凍パスタ・お弁当シリーズ

食品事業

1,916億円

(2017年度売上高実績)

冷凍パン生地・
パイ生地



中食事業

コンビニ向けお弁当の製造

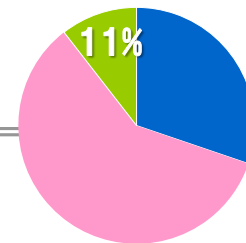


中食市場にあらゆる
業務用食材を供給



その他事業

2017年度
売上高構成比



少子高齢化へシフトする社会をビジネスチャンスに

健康食品



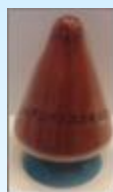
アマニ油



サプリメント

有用性食品素材

食品、飲料、サプリ、化粧品へ供給拡大



パミス



セラミド



リグナン

自然化粧品 機能性化粧品

安全志向、自然志向
機能性志向の高まり
にタイムリーに対応



セラミド配合のアンチエイジングケアシリーズ
ローション エッセンス クリーム

パンの花

余暇の多様化
NIPPONグループの
文化事業パンの花教室
「ジュンコ・フローラ・
スクール」を展開



パンの花
(ジュンコ・フローラ・スクール)

ペットフード

ペットは家族
癒しを求め需要拡大



エヌピーエフジャパン(株)
千葉工場



OEM商品

スポーツクラブ

健康志向に
応え施設拡充



イーグルスポーツ小山
スタジオ「サヤップ」

その他事業 **340億円**

(2017年度売上高実績)

海外事業

アジア ～タイ・中国～

天津全順食品有限公司

- ・プレミックスの製造・販売

天津

上海

上海日粉食品有限公司

- ・プレミックスの製造・販売
- ・FSSC22000認証取得



NIPPN(Thailand)Co., Ltd.

- ・プレミックスの製造・販売
- ・FSSC22000、HALAL等の認証取得
- ・タイ国内及び周辺諸国への販路拡大



バンコク

Nippon Flour Mills (Thailand) Ltd.

ジャカルタ

PT. NIPPN FOODS INDONESIA

- ・プレミックス等の販売

アメリカ

Pasta Montana, L.L.C.

- ・パスタの製造・販売
- ・日本への輸出
- ・新ライン稼働開始（能力1.4倍）



モンタナ州

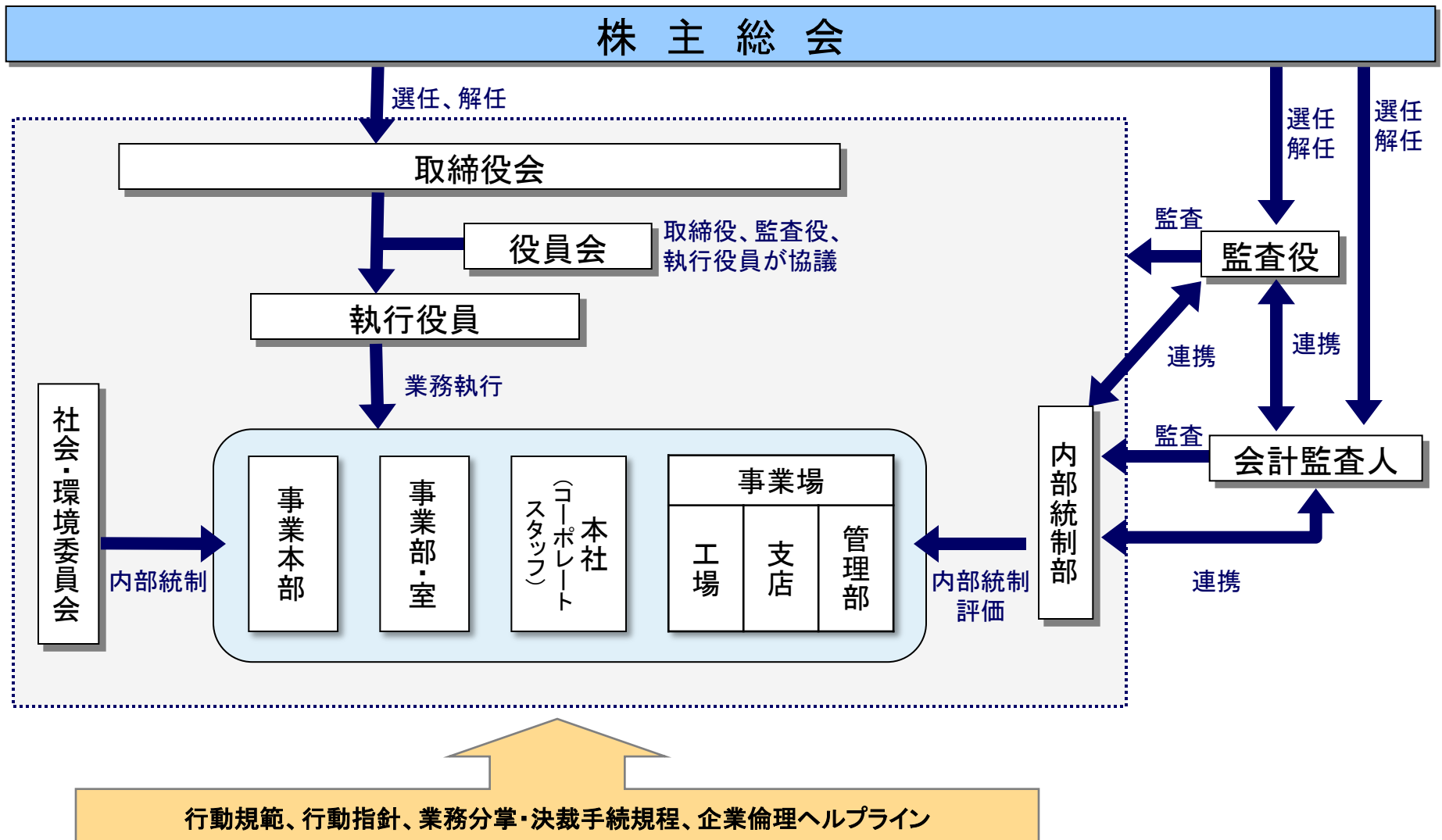
カリフォルニア州

NIPPN California Inc.

- 北米マーケットにおける食品食材の製造・販売

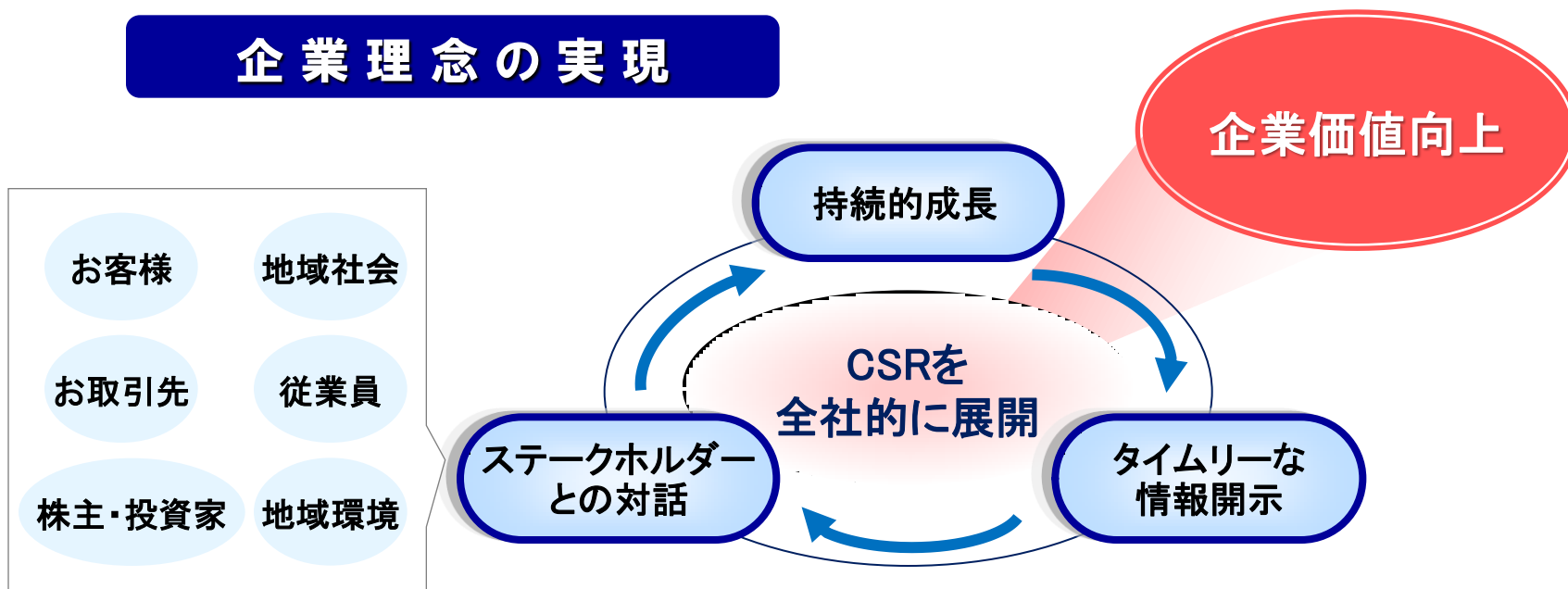


コーポレートガバナンス体制



日本製粉グループのCSR活動

企業理念の実現



● 顧客重視	商品の開発や提供の場で顧客満足を高める
● 品質経営	食の安全・安心をお届けする
● コーポレートガバナンス	経営のスピードと透明性を高める
● 内部統制	コンプライアンスを実現する体制を強化する
● リスクマネジメント	収益の最大化とロス最小化を図る
● 環境保全	地球環境の保全に貢献する
● 社会貢献	食育支援、ユニセフ支援、スポーツ支援などに取り組む

お問合せ先

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によりこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

日本製粉株式会社・IR室

TEL	03(3511)5316
FAX	03(3237)3552